

---

# F D活動報告書

(2014年度)

---

鹿児島女子短期大学



## — 目 次 —

1. 学生による授業評価 … 1
2. 授業公開 … 12
3. F D講演会・研修会 … 16
4. 外部F D研修会参加 … 25

## 1 学生による授業評価

### <授業評価アンケート実施内容>

(単位：名)

年度	学期	専任教員数	実施教員数 (専任)	非常勤 教員数	実施教員数 (非常勤)	授業改善書 提出教員数 (専任)	授業改善書 提出教員数 (非常勤)
平成26年度	前期	48	44 (91.7%)	42	24 (57.1%)	32 (72.7%)	17 (70.8%)
	後期	48	45 (93.8%)	53	23 (43.4%)	37 (82.2%)	13 (56.5%)

### ◆授業評価依頼文書① (例示：平成26年度後期：中間アンケート依頼)

点検・評価委員会

#### 「授業に関する中間アンケート」の実施について

FD活動の一環として、本年度も「授業に関する中間アンケート」を行っていただきます。アンケート内容は各自で分析の上、必要ならば学期内に早急に対応してください。  
平成26年度後期は、下記の要領で、原則として全教員が実施してください。宜しくお願いします。

記

実施時期：3～5回目の授業を目安とする（15回講義の場合）

実施科目：学期末にアンケートを実施する予定の科目を含む（各自1科目1授業以上）

方法：①各教員は、中間アンケート用紙を授業中に配布し、学生に記入させ、回収する。  
アンケート用紙は点検・評価委員会で用意したもの（事務室出勤簿横に設置）を自由に使うことができるが、各教員が独自のアンケートを作成してもよい。  
(回収したアンケート用紙は各自で保管する。)

②教員は、アンケートに目を通し、必要に応じて早急な対応・改善を図る。

③中間アンケートの実施状況、改善点等については、学期末提出の「授業改善に向けて」の中に記載する。

以上

### ◆授業評価依頼文書② (例示：平成26年度後期：授業アンケート依頼)

#### 「授業についてのアンケート調査」実施要領（平成26年度後期）

点検・評価委員会

#### 1. アンケート実施期間

下記の期間に「授業についてのアンケート調査」を実施してください。

平成27年1月6日（火）～1月26日（月）

#### 2. アンケート実施予定票の提出

アンケート科目は、学期中に中間アンケートを実施した科目のうちの1科目（全授業）です。実技・演習科目も対象科目としていただいで結構です。

アンケート実施予定日の前日までに、下欄の予定票に記入し、切り取って点検・評価委員会のレターケースに提出してください。(moodle等利用の場合は、その旨お書き下さい。)

#### 3. アンケート実施手順（\*moodle等を用いたアンケートの場合を除きます。）

- ①授業前に、アンケート用紙（「授業についてのアンケート調査」）の入った封筒を事務室で受け取ってください。（封筒に科目コードが書かれています。）
- ②アンケート用紙を学生に配付後、黒板に科目コードと自由設定項目20を書いてください（追加質問がない場合は不要です。）
- ③15分程度の時間を回答に充ててください。
- ④学生の代表に、アンケート用紙の回収にあたらせてください。重なる順番は自由ですが、用紙の向きが合っていることを確認させてください。
- ⑤学生の代表に、所定の封筒に回収したアンケート用紙を入れさせてください。
- ⑥授業後、その封筒と余りのアンケート用紙を、出勤簿付近の所定の箱に入れてください。

#### 4. 授業改善報告書

集計結果がまとまり次第、先生方にデータをお渡しします。それに基づいて「授業改善に向けて」（授業改善報告書）をご提出いただきますので、よろしく願いいたします。

..... 切り取り線 .....

平成26年度後期

#### アンケート実施予定票

氏名 \_\_\_\_\_

【実施科目】 \_\_\_\_\_ (原則として、中間アンケートを行った科目)

【実施授業時間】 (授業が複数回ある場合はそれぞれ書いてください。)

受講者数

J・S・C	年	組	月	日	曜日	・	時限	( )
J・S・C	年	組	月	日	曜日	・	時限	( )
J・S・C	年	組	月	日	曜日	・	時限	( )
J・S・C	年	組	月	日	曜日	・	時限	( )

◆授業評価依頼文書③ (例示：平成26年度後期：アンケート結果配付・授業改善書提出依頼)

平成27年2月23日

教員各位

鹿児島女子短期大学  
点検・評価委員会

平成26年度後期授業評価アンケート集計結果の配布  
および「授業改善に向けて」の提出について

先般実施いただきました授業評価アンケートの集計が終わりましたので、別添のとおりお知らせいたします。  
つきましては資料結果に基づき、同封いたしました「授業改善に向けて」にご記入の上、提出いただきますようお願い申し上げます。  
なお、様式が必要な方は、お手数ですが総務課 (syomu@jkajyo.ac.jp) にお知らせください。  
追って、メールにて送付させていただきます。

記

1. 同封資料

- ・「学生による授業評価アンケート」集計結果 (実施全科目分)
- ・「学生による授業評価アンケート」集計結果 (科目または授業別)
- ・「学生による授業評価アンケート」自由記述欄 (切り抜き)
- ・「授業改善に向けて」様式

2. 提出先

点検・評価委員会レターケース

3. 提出締切日

平成27年3月13日 (金)

◆授業評価アンケート用紙

授業についてのアンケート調査 鹿児島女子短期大学

このアンケートは、授業および学習のための改善策を目的に実施されています。匿名で回答することをお勧めします。回答は授業評価には関係ありません。また、回答の強制はありません。

(a) 番号・氏名等を入力してください

( J ・ S ・ C ) 年 組 番 氏名:

(b) 実施日と科目名を入力してください

実施日	月	日
科目名		

(c) 科目番号を入力し、マークしてください

科目番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
	○	○	○	○	○	○	○	○	○

(d) 出席番号をマークしてください

①番～⑩番までの方は、十の位を(○)にマークしてください	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

(e) 学年をマークしてください

①	1年生
②	2年生
③	上級生

(f) 組をマークしてください

①	1組
②	2組
③	3組
④	4組
⑤	5組
⑥	6組
⑦	その他

(g) 学科をマークしてください

①	理論教育学科
②	生活科学科
③	看護学科
④	上級生

(h) 授業評価

1	2	3	4	5
○	○	○	○	○

A 次の質問について①～⑤までの5段階で最も近いと思われる数字を記し、マークしてください

(1) あなたは授業を初回欠席 (公欠も含む) しましたか。	1	2	3	4	5
(2) あなたは「到達目標」をよく読みましたか。	1	2	3	4	5
(3) あなたは予習や復習を十分にしましたか。	1	2	3	4	5
(4) あなたは授業の内容を理解することができましたか。	1	2	3	4	5
(5) あなたの受講態度を1～5の5段階で評価してください。	1	2	3	4	5
(6) 授業は「到達目標」に沿って行われましたか。	1	2	3	4	5
(7) 授業はよく準備されていましたか。	1	2	3	4	5
(8) 毎回の授業の目標は明確になっていましたか。	1	2	3	4	5
(9) 教員の説明はわかりやすかったですか。	1	2	3	4	5
(10) 発見や感動などがあり、興味を持てる授業でしたか。	1	2	3	4	5
(11) 教員と学生の間にやりとりがあるなど、授業に活気がありましたか。	1	2	3	4	5
(12) 教員の声は十分に大きく、明確な話し方でしたか。	1	2	3	4	5

用紙の向きを揃えて回収 折り曲げ厳禁

1. はし、0.5cm幅のマークシートです。マークシート専用の回収箱に回収してください。
2. 破損が防止は折り曲げないでください。
3. 対応する場合は折じばみで折り曲げ、折じばみの上に乗せてください。

(13) 板書の仕方、パワーポイントの表示の仕方、プリントの用紙は適切でしたか。	1	2	3	4	5
(14) 始業・終業時刻を含め、時間配分は適切でしたか。	1	2	3	4	5
(15) 教員の熱意を感じましたか。	1	2	3	4	5
(16) 教員は、学生に公平に接していましたが。	1	2	3	4	5
(17) テキスト、ビデオ、プリント資料などの教材は理解の助けになりましたか。	1	2	3	4	5
(18) この授業にとって、教室の環境、設備などは適切でしたか。	1	2	3	4	5
(19) この授業を総合的に1～5の5段階で評価してください。	1	2	3	4	5
(20) (教員が振替する質問に答えてください。出されない場合もあります。)	1	2	3	4	5

B 以下の質問について自由に答えてください

(21) この授業でよかったと思う点を書いてください。	注意
	①
(22) この授業でよくなかったと思う点、改善すべきだと思う点を書いてください。	注意
	①
(23) この授業について、教室、施設、設備も含め、不満・要望、その他があれば書いてください。	注意
	①

◆「授業改善に向けて」用紙

「授業改善に向けて」	
作成年月日	年 月 日
授業科目名(受講者数)	( ) 名
担当教員名(所属)	( )
①当該授業開始前の教育上の目標・配慮	
②授業に関する中間アンケートの分析	③中間アンケートを受けての改善内容
④学期末授業評価の分析	⑤次年度へ向けての改善目標・改善内容

※複数開講科目の場合、受講者数は授業ごとに個別に人数を記してください(例:「95+110名」)。  
 ※②と③の分析は、学生による授業評価を総合的に振り返ってください。学生からの質問の代表的なものに対して、具体的にお答えいただいても結構です。  
 ※中間アンケートについては、実施された方はご記入ください。実施されなかった方は、「実施せず」とご記入ください。

◆授業評価依頼文書④(例示:平成26年度後期:授業公開週間・アンケートお知らせ:非常勤講師)

非常勤講師 各位

平成26年9月22日

鹿児島女子短期大学  
点検・評価委員会

**授業公開週間と授業評価アンケートについてのお知らせとお願い**

先生方におかれましては、平素より本学の教育活動に対し、格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて本学ではFD活動(授業改善)の一環として、「授業公開週間」及び「授業評価アンケート」を実施しています。つきましては、非常勤講師の先生方にもご理解とご協力をお願い申し上げます。

**1. 授業公開週間について**

授業公開週間は教員間で授業を参視し合うことにより、各教員が個々の授業を見直してその向上を図ることを目的としています。非常勤講師の先生方にも是非授業を公開していただきたくお願い申し上げます。また、ご都合がございましたら、他教員の授業も参視していただければ幸いです。

なお、授業公開が難しい場合は、下記にてその旨をお知らせ下さい。参視不可の授業として、本学教職員に周知いたします。(また、休講等ありましたら、お知らせ下さい。)

他教員の授業参視を希望される場合は、「授業公開週間日程表」(公開されている授業の時間割)がございますので、教務課にお尋ね下さい。

**実施期間:平成26年 10月 14日(火)~24日(金)**

概要:①上記の期間中に授業の参視ができます。90分間に複数の授業を参視していただいても構いません。

②期間中は、「授業公開週間日程表」(時間割は教務課でご確認下さい。)に条件が明示されていない限り、授業担当者の許可なく入室できます。

参観後:①参観者は、教務課カウンター設置の「授業参観記録」(裏面 sample 1)に感想等を記入し、教務課へ提出して下さい。

②記録用紙は1授業につき1枚の記入となります。

③教務課で記録用紙を回収した後、科目毎にまとめ、授業担当者へお渡しします。(ただし、コピーを1部、点検・評価委員会で保管します。)

キリトリセン

提出期限:平成26年10月10日(金)  
提出先:教務課

ご氏名 \_\_\_\_\_

授業を

公開する

_____ 月 日 限目	_____ 月 日 限目
_____ 月 日 限目	_____ 月 日 限目
_____ 月 日 限目	_____ 月 日 限目

公開しない

(理由: \_\_\_\_\_ )

2. 授業評価アンケートについて

FDにおいて、教育の受益者である学生の意見を汲むことは欠かせないものと考え、本学では授業評価アンケートを実施しています。これは、1学期につき1科目を目安に中間評価、最終評価の2度実施するもので、それぞれの評価は下記のとおり行われています。

アンケート結果を授業改善の手立ての一環としてお役立て頂ければ幸いです。

○中間評価

実施期間：10月中旬～11月上旬（15講義の場合、3～5回目の講義が目安）

実施科目：担当科目（1科目以上）

- 実施方法：①アンケートを行う講義名を事前に下記票にて教務課にご連絡いただきますと、所定のアンケート用紙(裏面 sample ①)を準備いたします。  
 なお、独自の方法・項目でアンケートを実施していただいても構いません。  
 ②アンケート用紙は対象講義の時間内で学生へ配布し、記入後、回収していただきます。集計・分析は各々の先生方でお願いたします。  
 (回収した用紙は各自保管となります。)  
 ③アンケートの結果に応じて、早急な対応、改善をお図りください。  
 ④中間アンケートの実施状況、改善点等については、学期末提出の「授業改善に向けて」(授業改善報告書)の中にご記入いただくことになっています。

○最終評価

実施期間：講義最終週

実施科目：中間アンケートを実施した科目

- 実施方法：①アンケートを行う講義名を事前に教務課にご連絡いただきますと、アンケート用紙(裏面 sample ②)を準備いたします。(全学共通)  
 ②アンケート用紙は、対象講義の時間内で学生へ配布し、記入後、回収していただきます。(回収と封入は学生の代表にさせて下さい。)  
 ③回収した用紙を教務課にお渡しいただきますと、係で集計を行い、後日結果をご連絡させていただきます。  
 ④アンケート集計結果に基づき「授業改善に向けて」(授業改善報告書)をご提出いただきます。

キリトリセン 提出期限：平成26年11月4日(火)  
 提出先：教務課

ご氏名 \_\_\_\_\_

授業評価アンケートを

実施する

\_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 \_\_\_\_\_ 限目 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 \_\_\_\_\_ 限目

\_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 \_\_\_\_\_ 限目 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 \_\_\_\_\_ 限目

実施しない

(理由： \_\_\_\_\_ )

(サンプルまとめ)

平成26年度 授業参観記録(授業公開週間 sample 1)

科目名		担当者	先生
参観日時	10月 日 ( )	1・2 3・4 5・6 7・8 9・10	限目
記入者	児童教育学科	生活科学科	教養学科
	非常勤講師	事務職員	その他 ( )
氏名			
授業についての感想			

(授業評価 Sample ①)

授業に関する中間アンケート

平成 年 月 日

科目名 \_\_\_\_\_

この授業についての感想を5段階で答えてください。

■話し方	1	2	3	4	5	よい
■板書の見やすさ	1	2	3	4	5	よい
■進み方	1	2	3	4	5	よい
■内容が理解できた	1	2	3	4	5	よい
■興味を持てた	1	2	3	4	5	よい

■授業に対する要望があれば書いてください

(授業評価 Sample ②)

授業についてのアンケート調査

授業評価アンケート

科目名 \_\_\_\_\_

この授業についての感想を5段階で答えてください。

話し方	1	2	3	4	5
板書の見やすさ	1	2	3	4	5
進み方	1	2	3	4	5
内容が理解できた	1	2	3	4	5
興味を持てた	1	2	3	4	5

授業に対する要望があれば書いてください

平成27年3月27日

非常勤講師 各位

鹿兒島女子短期大学  
点検・評価委員会平成26年度後期授業評価アンケート集計結果の配布  
および「授業改善に向けて」の提出について

先生方におかれましては、平素より本学の教育活動に対し、格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、先般実施いただきました授業評価アンケートの集計が終わりましたので、別添のとおりお知らせいたします。

つきましては、お忙しいところ誠に恐縮ではございますが、資料結果に基づき、同封いたしました「授業改善に向けて」にご記入のうえ、提出いただきますようお願い申し上げます。

なお、様式が必要な方は、お手教ですが総務課（syomu@jkaiyo.ac.jp）にお知らせください。

追って、メールにて送付させていただきます。

## 記

## 1. 同封資料

- 「学生による授業評価アンケート」集計結果（実施全科目分）
- 「学生による授業評価アンケート」集計結果（科目または授業別）
- 「学生による授業評価アンケート」自由記述欄（切り抜き）
- 「授業改善に向けて」様式
- 返送用封筒

## 2. 提出締切日 平成27年4月15日（水）

平成26年度 前期実施  
「学生による授業評価アンケート」集計結果(全体)

質問項目	各選択肢の回答率(%)					度数	平均値	標準偏差
	0	1	2	3	4			
(1) あなたは授業を何回欠席（公欠も含む）しましたか。	70.4%	20.0%	6.3%	2.5%	0.9%	5513	0.4	0.8
(2) あなたは『講義要項』をよく読みましたか。	7.0%	34.1%	41.7%	12.6%	4.5%	5517	2.7	0.9
(3) あなたは予習や復習を十分にしましたか。	6.9%	27.9%	41.2%	17.7%	6.2%	5514	2.9	1.0
(4) あなたは授業の内容を理解することができましたか。	1.2%	11.3%	37.0%	36.5%	14.0%	5517	3.5	0.9
(5) あなたの受講態度を1～5の5段階で評価してください。	0.3%	2.9%	32.6%	46.5%	17.8%	5520	3.8	0.8
(6) 授業は『講義要項』に沿って行われましたか。	0.8%	4.2%	39.8%	36.6%	18.7%	5518	3.7	0.8
(7) 授業はよく準備されていましたか。	0.6%	3.0%	23.3%	38.2%	34.9%	5516	4.0	0.9
(8) 毎回の授業の目標は明確になっていましたか。	0.8%	4.9%	27.1%	36.1%	31.2%	5518	3.9	0.9
(9) 教員の説明はわかりやすかったですか。	1.5%	7.4%	26.4%	35.4%	29.3%	5516	3.8	1.0
(10) 発見や感動などがあり、興味の持てる授業でしたか。	1.2%	6.7%	29.2%	35.3%	27.6%	5518	3.8	1.0
(11) 教員と学生の間やりとりがあるなど、授業に活気がありましたか。	1.2%	6.9%	31.8%	33.1%	27.0%	5517	3.8	1.0
(12) 教員の声は十分に大きく、明瞭な話し方でしたか。	1.1%	4.5%	21.6%	34.1%	38.8%	5517	4.1	0.9
(13) 板書の仕方、パワーポイントの表示の仕方、プリントの用い方は適切でしたか。	1.5%	7.1%	32.8%	32.4%	26.2%	5507	3.7	1.0
(14) 始業・終業時間を含め、時間配分は適切でしたか。	1.7%	4.6%	24.8%	35.7%	33.2%	5518	3.9	1.0
(15) 教員の熱意を感じましたか。	0.6%	2.3%	22.1%	35.6%	39.4%	5513	4.1	0.9
(16) 教員は、学生に公平に接していましたか。	0.8%	2.3%	22.0%	33.3%	41.5%	5514	4.1	0.9
(17) テキスト、ビデオ、プリント資料などの教材は理解の助けになりましたか。	0.9%	3.8%	27.1%	36.7%	31.5%	5503	3.9	0.9
(18) この授業にとって、教室の環境、設備などは適切でしたか。	0.6%	3.0%	24.5%	37.1%	34.8%	5511	4.0	0.9
(19) この授業を総合的に1～5の5段階で評価してください。	0.5%	3.1%	22.8%	44.6%	29.0%	5508	4.0	0.8

※下線は各質問項目において最も回答者が多かった選択肢です。

※「度数」とは、各質問項目の有効回答者数です。

※「標準偏差」とは、データ群の平均値とそれぞれのデータの乖離具合、ばらつき具合を示したものです。

◆集計結果（平成26年度後期：全体）

平成26年度 後期実施  
「学生による授業評価アンケート」集計結果（実施全科目分）

質問項目	各選択肢の回答率(%)					度数	平均値	標準偏差
	0	1	2	3	4			
(1) あなたは授業を何回欠席（公欠も含む）しましたか。	58.7%	22.9%	11.3%	5.2%	1.9%	4524	0.7	1.0
(2) あなたは『講義要項』をよく読みましたか。	11.0%	37.5%	39.3%	9.1%	3.2%	4533	2.6	0.9
(3) あなたは予習や復習を十分にしましたか。	8.6%	27.5%	43.2%	15.7%	5.0%	4530	2.8	1.0
(4) あなたは授業の内容を理解することができましたか。	1.7%	9.0%	37.1%	38.3%	13.9%	4531	3.5	0.9
(5) あなたの受講態度を1～5の5段階で評価してください。	0.2%	3.3%	33.1%	47.5%	15.9%	4528	3.8	0.8
(6) 授業は『講義要項』に沿って行われましたか。	0.8%	4.6%	38.1%	37.5%	18.9%	4531	3.7	0.9
(7) 授業はよく準備されていましたか。	0.4%	2.6%	22.0%	39.3%	35.6%	4531	4.1	0.8
(8) 毎回の授業の目標は明確になっていましたか。	0.4%	3.4%	24.8%	37.8%	33.5%	4532	4.0	0.9
(9) 教員の説明はわかりやすかったですか。	1.4%	5.7%	24.1%	36.3%	32.5%	4532	3.9	1.0
(10) 落見や感動などがあり、興味の持てる授業でしたか。	1.3%	5.6%	27.3%	34.9%	30.9%	4531	3.9	1.0
(11) 教員と学生の間にやりとりがあるなど、授業に活気がありましたか。	1.4%	6.6%	29.2%	33.5%	29.4%	4534	3.8	1.0
(12) 教員の声は十分に大きく、明瞭な話し方でしたか。	0.5%	3.8%	20.2%	34.8%	40.6%	4534	4.1	0.9
(13) 板書の仕方、パワーポイントの表示の仕方、プリントの用い方は適切でしたか。	1.7%	5.6%	30.1%	33.8%	28.8%	4519	3.8	1.0
(14) 始業・終業時間を含め、時間配分は適切でしたか。	0.7%	3.1%	23.4%	36.6%	36.3%	4535	4.0	0.9
(15) 教員の熱意を感じましたか。	0.4%	2.2%	21.2%	36.3%	39.9%	4527	4.1	0.8
(16) 教員は、学生に公平に接していましたか。	0.5%	2.4%	20.6%	34.7%	41.8%	4532	4.1	0.9
(17) テキスト、ビデオ、プリント資料などの教材は理解の助けになりましたか。	1.2%	3.1%	25.9%	36.3%	33.6%	4523	4.0	0.9
(18) この授業にとって、教室の環境、設備などは適切でしたか。	0.4%	2.1%	22.7%	36.6%	38.1%	4525	4.1	0.8
(19) この授業を総合的に1～5の5段階で評価してください。	0.4%	2.6%	19.1%	44.7%	33.3%	4513	4.1	0.8

※下線は各質問項目において最も回答者が多かった選択肢です。  
 ※「度数」とは、各質問項目の有効回答者数です。  
 ※「標準偏差」とは、データ群の平均値とそれぞれのデータの乖離具合、ばらつき具合を示したものです。

2 授業公開

<授業公開週間実施内容>

(単位：名)

年度	実施期間	参 観 科目数	専 任 教員数	授業参観記録 提出教員数	備考 (教員内訳)
平成 26 年度	平成26年 10月14日(火)～24日(金)	27	48	27	児童教育：5/21名 生活：16/18名 教養：6/9名 非常勤：0名

◆授業公開週間について（平成26年度）

授業公開週間について

点検・評価委員会

○期 日： 10月14日(火)～10月24日(金)

○目 的

授業を他教員に参観されることや他教員の授業を参観することにより、自身の授業の現状を振り返り、授業内容・方法等の改善を図る。

○方 法

本学の全教員が、上記期間中に、最低1つの授業を参観し、「授業参観記録」を提出する。事前に「授業公開週間日程表」を掲示しておくので、授業担当者は、早めに休講の情報や参観条件を記入する。参観者は、参観予定授業の所定欄に、氏名を記入しておくことが望ましい。参観後、参観者は事務室設置の「授業参観記録」用紙に感想を書き、点検・評価委員会のレターケースに提出する。提出された記録は、後日、点検・評価委員会より授業担当者に渡すことになっている。本年度も非常勤講師にも授業公開週間について周知し、参観を促す。

平成26年度 授業参観記録(sample)

科目名		担当者	先生
参観日時	10月 日 ( )	1・2 3・4 5・6 7・8 9・10	限目
記入者	児童教育学科 非常勤講師	生活科学科 事務職員	教養学科 その他 ( )
	氏名		
授業についての感想			

◆授業公開について（時間割確認のお知らせ）（平成 26 年度）

**授業公開についてお知らせ**

授業公開週間(10/14～10/24)の時間割を出勤簿横に準備いたしました。各学科の時間割について、次の点をご確認の上、必要事項を記入してください。

**①休講・時間割変更・教室変更の有無**  
※ 10/9 現在までに、わかっている休講・教室変更については記載しています。

**②授業参観者の名前**  
※ 参観したい授業の欄に**朱ペン**にて名前をご記入下さい。

\*\*\* 非常勤講師の方も、授業公開にご協力いただいております。  
できるだけ、参観にもご協力いただきますようお願いいたします。\*\*\*

10月10日 点検・評価委員会

◆授業公開について（公開週間お知らせ：学生用）（平成 26 年度）

2014.10.1

**授業公開週間のお知らせ**

点検・評価委員会

本学における授業改善の一環として、「授業公開週間」を実施します。これは、教員間で授業を参観し合うことにより、各教員が自分の授業を見直して質の向上を図ることを目的としています。期間中は、学生の皆さんが受けている授業を、本学教職員または非常勤講師の先生方が参観されることがありますので、その際は理解と協力をお願いします。

**実施期間：10月14日(火)～24日(金)**

以上

◆授業公開参加記録設置案内（平成 26 年度）

**授業公開週間**

平成 26 年 10 月 14 日(火)～10 月 24 日(金)

参観後、「授業参観記録」用紙に感想をご記入いただき、点検・評価委員会のレターケースに **10月31日(金)までに**ご提出ください。

◆授業公開参観記録様式（平成 26 年度）

平成 26 年度 授業参観記録

科目名		担当者	先生
参観日時	10 月 日 ( )	1・2 3・4 5・6 7・8 9・10	限目
記入者	児童教育学科 非常勤講師	生活科学科 事務職員	教養学科 その他 ( )
	氏名		
授業についての感想			
※10月31日(金)までに点検・評価委員会のポストにご提出ください。			



◆授業公開実施報告（平成 26 年度）

授業公開週間について

点検・評価委員会

授業公開週間の報告

○実施期日：10月14日(火)～10月24日(金)

○方法：期間中に最低1授業を参観し、授業参観記録を点検・評価委員会に提出する。  
授業参観記録は、委員会より授業者に配布する。

○結果：提出された授業参観記録 27（昨年28）

- ・児童教育学科 5/21、生活科学科 16/18、教養学科 6/9、非常勤 0
- ・本年度の傾向としては、学生の私語への対応、興味の引き方、授業そのものの進め方、学生へ課題を与え自分のこととして考えさせる手法等へ着眼した感想が多かった。いかに理解を深めてもらうか、その点を考え授業を行いたいという方向へ教員の認識が進んでいることは授業公開が良い方向に進んでいる証拠ではないかと思われる。
- ・常に付きまとう問題であるが、思うように参観時間を確保できない教員、一般教養科目担当者は一般教養科目を授業参観できない等、やむを得ない事情もあるのも確かである。この点は点検・評価においてどのようにできる問題でもないと思われるが、常にFDという観点よりどのように教員の資質向上に役立つものが提供できるか考えつつ活動していきたいと考える。

授業参観された科目の一覧

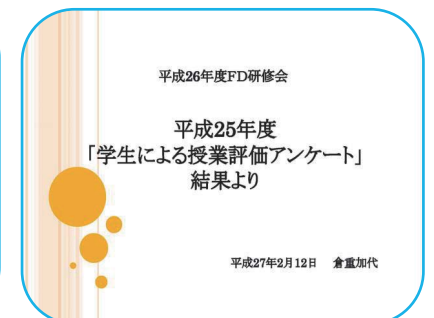
ビジネスワーク	障害児の教育・保育
日本文学	看護実習
日本国憲法	食品衛生学実験
情報メディアの活用	介護総合演習
住まいと環境	病理学
看護実習	看護実習
社会学	栄養指導実習
保育相談支援	家族支援論
スペシャリスト論	コンピュータ基礎論
食品評価・鑑別実験	保育内容（人間関係）
経管栄養	数学基礎
レクリエーションワーク	

3 FD研修会

<FD研修会内容>

平成 26 年 度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年度第1回FD研修会</li> <li>(1)「平成25年度学生による授業評価アンケート結果より」</li> <li>(2) ワークショップ：テーマ「より良い学びを導くにはどうすればよいか －PCK（教授内容知識）の活用－」</li> <li>平成27年2月12日（木）14：00～16：00（東館201号室）</li> <li>（講師：准教授 倉重加代・講師 内田豊海） 本学参加者：46名</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年度第2回FD研修会「第20回FDフォーラム報告」（京都：同志社大学）</li> <li>テーマ：「学習支援を問う～何のために、何をどこまでやるべきか」</li> <li>平成27年3月25日（水）10：30～11：30（南館304号室）</li> <li>（講師：教授 池田哲之・教授 大重康雄 教授 住澤知之・講師 内田豊海） 本学参加者：42名</li> </ul>

◆平成27年2月12日（木）「第1回FD研修会」





## 平成 26 年度 FD 研修会報告

日 時：2 月 12 日(木) 14:00-16:00

場 所：東館 201 号室

内 容：1. 平成 25 年度学生による授業評価アンケートより（倉重准教授）

2. ワークショップ（内田講師）

テーマ「より良い学びを導くにはどうすればよいか

—PCK(教授内容知識)の活用—

参加者：46 名

### [ アンケートより ]

#### ①「平成 25 年度学生による授業評価アンケート結果より」について、ご感想・ご意見等ありましたらお書きください。

- ◆これまでに集積されたデータ解析結果が発表され本学の実態がよくわかった。
- ◆少人数授業 40～60 人ラインを上限にしたカリキュラム編成など一定の動機づけ、教員の確保など基礎的データとなる。
- ◆「全ての授業の分析」に履修カルテの活用を本気で考えねばならないと感じました。
- ◆大体イメージしている通りの結果であったと思う。
- ◆100 名以上の授業は、評価が低いという話でしたが、児童教育学科の授業は 100 人以上の授業が多いです。児童の評価について、他学科との比較があれば教えてください。
- ◆授業アンケートは、その結果を分析しなければ意味がない。その意味ではよかったです。
- ◆近い将来、全科目についてのアンケートをすべきだと思います。データを豊富にした方がよいと思います。
- ◆公平な授業評価は不能であるというのが結論です。ただし、物理的・客観的な基準については共通物差の構築は可能です。
- ◆数字で評価する形の授業評価には限界がある気がしている。例えば、その科目が好きとか、その授業担当者が好きとかいうことにも結果は影響されると思う。具体的な意見や要望を書いてもらうの方が意味が大きいと思うが、それが客観性があるのかと言われれば・・・という感じです。
- ◆在学期間によっても変化がみられることと、人数によって満足度に違いがみられることは大変興味深かったです。
- ◆アンケート結果、考察を知ることができ、授業をおこなうに当たり良い参考になりました。
- ◆授業改善に向けた研究として、貴重な資料だと思います。こんな研究が続くといいですね。
- ◆集計、ご報告ありがとうございました。
- ◆データをまとめていただくことで、見えてきたことがあったので、よりよい授業（学生にとって）になるように、努力していきたいと思いました。
- ◆人数別の評価や講義、実習などスタイルの相違、学年など、評価が違うことを知り、興味深いデータだと思いました。住澤先生、倉重先生どうもありがとうございました。
- ◆内容は興味深いものでした。今までのやり方をどのように変え、PDCAのAにつなげられるかの意見を求めてもよかったかと思いました。
- ◆次回は本館で行ってほしい。東 2 F は入り口が一ヶ所で、雨天時厄介だから。

#### ②FD 研修ワークショップについて、ご感想・ご意見等ありましたらお書きください。

- ◆PCK について教育方法の観点から理解することができた。
- ◆ワークショップでは、時間が 10 分しかなくそれぞれのグループからの意見を集約できなかったのが残念だった。
- ◆「学生のために」「人間としての成長」を熟弁していただき、本当にありがとうございます。※各教員の「教職観」も聞いてみたいです。
- ◆PCK の理解まではよく分かったし、その後のものはよく理解出来たのですが、PCK とのつながりや PCK とワークショップとのつながりがいまひとつよく分からなかった。
- ◆大変興味深いお話でよかった。
- ◆グループで討議できてよかった。
- ◆有意義でよかった。
- ◆5 人グループでしたが、微妙に意見が違い、自分の案を考える上で、大変参考になりました。
- ◆教授内容知識の重要性、またパワポの特記画面あらたな発見がありました。
- ◆教育学を改めて学んでみたいになりました。
- ◆内田先生のお話を聞いて、教職観について改めてふりかえる時間となりました。また、他の先生方と同じテーマでこれだけの授業ができることがわかり、とても勉強になりました。
- ◆日頃考えることのないテーマでディスカッションでき、良い刺激になった。忙しい業務の中でも、日頃から様々なことに対して考えて、自身の意見を明確にするべきだと感じた。
- ◆原点に戻った気分です。初心に戻ります。気分がとても良いです。反省的実践家は保育でさんざん論議した話題でした。
- ◆他学科の先生方の傾向なども反映されて楽しかったです。
- ◆とてもためになる研修でした。度々、開催していただくとよい刺激になります。今後の授業にいかしていけるように取組みたいです。自分自身考えさせられる機会になりました。大変有難かったです。
- ◆各先生方のお考えを知ることができ、とても参考になりました。内田先生どうもありがとうございました。
- ◆むずかしいテーマでした。どうとらえてよいかわからなかった。

#### ③次回以降、議論したいテーマ等ありましたらお書きください。

- ◆今回の授業組立のワークショップを続編でやってみたらよいと思います。
- ◆せっかく授業テーマ「自己責任」をみんなで書いたので、何人かの先生で模擬授業しませんか？
- ◆「私の授業の工夫」を共有したいです。
- ◆マニュアルには出来ないのは分かりますが、いろいろな良い評価の授業、良いと言われる授業の具体的な実践例をポイントを含め（何に注意して授業を組み立てているのか etc.）知りたい。
- ◆新しい教育の話し
- ◆各界で頑張っている人々の話し
- ◆アンケートをいかに活かして改善しているのか、その具体的な状況を知りたい。
- ◆アンケート結果の中で、すぐれた授業例があれば、具体的に示してほしい。
- ◆考慮中
- ◆アクティブ・ラーニングについてお伺いしたいです。

◆平成 27 年 3 月 26 日 (木)「第 2 回 FD 研修会」



平成 26 年度 第 2 回 FD 研修会  
 日 時：平成 27 年 3 月 25 日 (木) 10:30～  
 場 所：南館 304 教室

次 第

1. 開会
2. 学長あいさつ
3. 第 20 回 FD フォーラム 報告  
 テーマ：「学修支援を問う～何のために、何をどこまでやるべきか～」  
 主催：公益財団法人大学コンソーシアム京都  
 於：京都 同志社大学
4. 閉会



2014 年度 第 20 回 FD フォーラム  
**シンポジウム**

学修支援を問う  
 ～何のために、何をどこまでやるべきか～

同志社大学 今出川校地  
 2015 年 2 月 28 日 (土)  
 3 月 1 日 (日)



平成 26 年度 第 2 回 FD 研修会

2014 年度 第 20 回 FD フォーラム 2015.2.28-3.1  
 学修支援を問う～何のために、何をどこまでやるべきか～  
 参加報告

教養学科 大重 康雄



反転授業とは

これまでの学習 反転学習

知識の習得 知識の習得

知識の応用 知識の応用

Copyright © TCU, The University of Tokyo. All Rights Reserved



2014 年度 第 20 回 FD フォーラム (主催: 大学コンソーシアム京都) 参加報告

2015.3.25 南 304  
 池 田

(報告構成)

- ・第一部：おさらい-FD の大賞賞-
- ・第二部：分科会参加報告
- ・全体謝辞



◆平成 26 年度 第 2 回 FD 研修会 揭示 (内容)

平成 27 年 3 月 16 日

教職員各位

点検・評価委員長  
 村 若

平成 26 年度  
**第 2 回 FD 研修会のお知らせ**

下記のとおり、FD 研修会を開催いたしますので、  
 ご出席いただきますようお願いいたします。

記

◇期 日 3 月 25 日 (水) 10:30～  
 ◇場 所 南館 304 号室  
 ◇内 容 第 20 回 FD フォーラム 報告

研修会の最後に、FD 研修会に関するアンケートを  
 取らせていただきます。  
 集計結果は、後日教授会でご報告します。

◆平成 26 年度第 2 回 FD 研修会アンケート次第

平成 26 年度 第 2 回 FD 研修会	
日 時 : 平成 27 年 3 月 25 日 (水) 10:30~	MEMO
場 所 : 南館 304 教室	
次 第	
進行 村若 修 点検・評価委員長	
1 開会	
2 学長あいさつ	
3 第 20 回 FD フォーラム報告 テーマ:「学修支援を問う～何のために、何をどこまでやるべきか～」 主催:公益財団法人大学コンソーシアム京都 幹:京都 同志社大学 ・住澤教授 ・大重教授 ・内田講師 ・池田教授	
4 閉会	
以上	

◆平成 26 年度第 2 回 FD 研修会アンケート用紙

平成 26 年度 FD 研修会 アンケート

① FD フォーラム報告を受けて、感想意見等ありましたらお書きください。

② 次回以降、議論したいテーマ等ありましたらお書きください。

◆平成 26 年度第 2 回 FD 研修会報告

**平成 26 年度第 2 回 FD 研修会報告**

点検・評価委員会

平成 26 年度の第 2 回 FD 研修会が、平成 27 年 2 月 12 日 (木) 14:00 より実施されました。ご多忙な時期にもかかわらず、多数の教職員の皆様にご参加いただきありがとうございます。大学コンソーシアム京都主催の FD フォーラムへの参加報告の場として、平成 24 年度より行っております FD 研修会ですが、本年度は「学修支援を問う～何をどこまでやるべきか～」というテーマで、4 名の先生方に、それぞれご参加くださった 4 分科会の内容を踏まえてご報告いただきました。また、研修会后、アンケートにご協力くださった方々には大変ありがとうございました。内容は下記のとおりです。今年度も、ご参加くださった皆様にとって、刺激になり参考になる報告会であったとすれば幸いです。平成 27 年度に FD 委員会が新設されましたので、今後は新体制の下、さらに FD 活動が充実していくことを期待しています。

**○アンケート結果**

① FD フォーラム報告を受けて感想意見等ありましたらお書きください。(順不同)

- ・コンソーシアム京都の参加報告は、いずれも興味深く今後の FD 推進の参考になった。自身が発表者となったことで、FD についてあらためて考察する機会をえたことが収穫であった。
- ・住澤先生、初年次教育の大切さを自覚しました。「自走する学生」「中等教育のリセット」「高大連携」については興味深く聴きました。授業に生かしたいと思います。「オンデマンド授業」については、環境構築が課題ですね。
- ・有意義な報告会です。多くの先生方がフォーラムに参加できるような対応ができれば良いですが、学生の意見や実態把握をもっとすべきではないかと思ます。FD の実施のためには情報が必要ですね。
- ・先生方のお話は、大学での学修支援について、社会的背景や変化、現状と問題点など、多角的視点からの情報をいただき、とても理解しやすいものでした。どうもありがとうございました。
- ・小学校から高校までの学修支援の方針や現状及び問題点、短大・大学など高等教育の学修支援との連携について、お伺いできたら有難いです。

② 次回以降、議論していきたいテーマ等ありましたらお書きください。(順不同)

- ・低学力学生の学修支援策に関するもの。
- ・今後も進化した取り組みをしている大学の情報をお教えてください。
- ・学生アンケート等調査を FD に関して行ったものの発表も良いかも。

以上

## 5 外部FD研修会参加

### <参加内容>

平成26年度	<b>・第20回FDフォーラム（主催：財団法人大学コンソーシアム京都）</b> 平成27年2月28日（土）～3月1日（日） 於：同志社大学（京都） テーマ：「学習支援を問う～何のために、何をどこまでやるべきか」 参加者：教授 池田哲之・教授 大重康雄 教授 住澤知之・講師 内田豊海
--------	---

### ○（教授 住澤知之・講師 内田豊海）

グローバル化や経済状況の変化などの社会の変化、大学に入学する学生の多様化を背景として、大学ではさまざまな学修支援が行われるようになってきている。大学として学修支援の充実が重要な課題であるが、一方で主体的な学びを促すことも求められており、学修支援の在り方が問われていると言える。今回のシンポジウムでは、いくつかの事例を概観し、学生の主体性を育みながら、その学びをどのように支援していくかについて議論され、非常に興味深く、示唆に富んだ、有意義なフォーラムであった。

今回のフォーラムの内容については、必ずしも全てが鹿児島女子短期大学に当てはまり、適用できるものではないものの、短大でも教員で共有すべき点があるため、参加者による報告を行う必要がある。

### ◇参加報告（感想）

#### ○（教授 池田哲之）

##### ○シンポジウム

（1）立教（新設の経営学部を中心に）ではアクティブラーニング（ビジネスリーダーシッププログラム）を積極的に取り入れた結果、学生たちの自ら学ぶという姿勢が年々強くなり、就職状況もそれに応じて好転した。

（2）同志社では先年、ラーニングコモンズという自主学習の場を設置し、学生たちは、グループワークや調査研究にその施設設備を効果的に活用するようになってきている。

（3）京都大の溝上教授は、「学習」と「学修」の概念整理を行うべきであり、単位修得に直結する学びは「学修」、それをも包摂する広い意味での自主的学びを「学習」と捉えるべきであるとの持論を展開した。

わたし自身としては、溝上教授の説には首肯すべき点が多々あり、本学の「学修支援」活動に参考となりうる説であると感じた。

情報交換会では、学修支援企業の方や大学FD担当者とは有益な話を交わす機会をえた。ただ、大学関係者のFDに関する考え方は一枚岩ではなく、シンポで発表された事例は必ずしも敷衍化できないとの意見を少なからず聞くこともあった（同感である）。

##### ○分科会

わたしが参加したのは「小規模大学における学修支援」分科会である。四国大、日本文理大、京都教育大のFDへの取組が順次紹介され、それぞれの長短を比較検討しながら聴講した。印象的だったのは、FD先進大学の日本文理大で教員側のFD疲労ともいえるべき状況が生まれており、今後はFDの取捨選択こそ重要になってくるとの見解が示されていたことである。それを補強するように四国大の教員は、文科省の方針はとかくぶれがちであり、各種の通知・指針は各大学によって再解釈される余地があるとのまとめを最後に行っていた。これをわたしは「FDの個性化」と呼びたい。この教員とは、帰鹿後、メール上にてさらなる意見交換を行い、同大の実情や同教員のさらなる本音の部分を探知した。

本学に求められるのは、学生と教員のウィンウィンの関係を可能とするFD構築である。

#### ○（教授 大重康雄）

シンポジウムでは2012年の文部科学省「質的転換答申」での「学修」と「学習」の違い等について深く考えさせられた。京都大学の溝上慎一教授による、単位制とトランジションをどう折り合わせるかについての講演が非常に興味深く聞くことができた。

本学が第三者評価に備えて、点検評価委員会の中で議論してきた「学習」と「学修」の設置基準上の解釈など、今回の講演を聞き自分なりに納得できた。また学修からその枠（単位制）を越え学習していくことがいかに重要かも理解できた。

分科会ではキャリア教育の現状に関して、教育現場で抱えている矛盾を理解し今後の学生への進路支援をどう進めるかヒントが得られた。技術的な就職支援部分と社会人へのトランジションを支援するキャリア教育部分のバランスが重要ではないかと感じた。圧倒的な就職支援が功を奏し学生募集でも大成功を収めている大学での事例発表が非常に興味深かった。

大学全体では募集も就職も非常に高い実績を上げているが、教員と進路支援センターとの意識の乖離が非常に大きく、連携は全くないとの説明に非常に驚いたし、会場の教員からもその現状に対する批判が多かった。FD・SDは両輪で機能すべきであり、大学の付加価値を高める基本である。今回のFDフォーラムで学んだ様々な事例を、今後の教育・研究に活かしたい。

「鹿児島女子短期大学 FD 活動報告書」  
(2014 年度版)

鹿児島女子短期大学 点検・評価委員会  
(2015 年 4 月発行)